



半世紀を経て再び江の島が決戦の地に 知っているつもりで、 まだまだ知らない江の島



1964年、東京オリンピックのセーリング競技が行われたのは江の島だった。半世紀を経て、2020年の東京オリンピックも江の島で開催することが決定！
メディアに登場することも多い江の島のあまり知られていない面白スポットと、当時のエピソードをピックアップ。



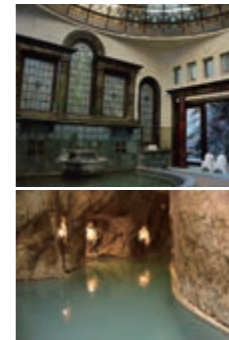
ノスタルジックな街並みに癒される 江の島旧市街



江の島弁財天仲見世通り入口の青銅の鳥居から、向かって左に伸びる細い路地は俗に旧市街と呼ばれている。この道は、江の島の周囲が埋め立てられる前は、最も海沿いに位置していたのだとか。路地の両側に民家や民宿、食堂、釣り店などが並ぶ光景は漁師町の雰囲気を残している。観光地らしい参道の喧騒が嘘のような昔の江の島を感じられる静かな通りだ。



気分は古代ローマ人？ 老舗旅館のローマ風呂



岩本楼は、鎌倉時代、江の島三宮の総別当職を務め、明治時代より旅館となった。1930年頃に作られたとされる岩本楼ローマ風呂は国の登録有形文化財に指定されている。天井にはガラスドーム、壁面の壁泉やベネチア窓飾りはタイルやテラコッタで飾られている。奥行20メートルの2つの洞窟からなる弁天洞窟風呂とともにレトロな味わいを醸し出している。



オリンピックに
キュン!

今も伝わる50年前のエピソード

「関係者以外立ち入り禁止」! 江の島に渡るには通行証が必要だった…

オリンピック開催時、江の島に入れたのは居住者と関係者のみで、通行証が必要だった。その通行証を今でも大切に保存しているのが、湘南モノレール湘南江の島駅近くにある「寿司政」。大将の山口旦さん(77)はオリンピック当時の江の島のことを、アルバムをめくりながら話してくれる。「2020年もこの通行証で入って行ってやるよ!」と豪快に笑う。



「人類愛の金メダル」と讃えられた スウェーデンの兄弟選手のフェアプレー

ヨット競技フライングダッチマン級レースでのこと。大会3日目の海上は大荒れで、沈没や故障する艇が続出。しかし、スウェーデンのラース・キエル、スリグ・キエル兄弟の艇は順調に先頭グループを追い上げていた。その時、前を走るオーストラリア艇が突風にあおられ、一人の選手が海に投げ出されてしまった。すると、キエル兄弟はレースを中断し、逆走して救助に向かい、監視艇が救出するのを見届けた後、レースを再開した。二人は「海で遭難事故を見つけたら、何を置いても救助に向かうのは海の男として当たり前」とコメント。大きな感動を呼んだ。



50年前の熱戦を見届けて 現在も静かにたたずむ聖火台

ヨットハウスの裏手に、1964年東京オリンピックのセーリング競技で使われた聖火台が今も残っている。オリンピック当時は、防波堤に聖火台が置かれていたが、その後センタープロムナードの入口に移された。江の島湘南港ヨットハウスの陰に隠れて道路からは見えないが、当時の面影をしのびに訪れてみたい。



今なお活躍する“湘南の貴婦人” 大型帆走クルーザー「やまゆり」

江の島がヨット会場に決定し、現在の湘南港が作られたとき、神奈川県は海外・国内の来賓用クルーザーとして「やまゆり」を建造。大会中は警備艇としても活躍した。現在、国内では43フィートの大型木造クルーザーで現役は皆無に等しく、日本のヨット史における文化財となっている。維持管理はNPO法人「帆船やまゆり保存会」が行う。



映画やアニメにも登場 西浦に続く細い路地

江の島弁財天仲見世通りにあるハルミ食堂の横の細い路地を入っていくと、路地の向こうに海が見える。路地の先にある階段を下りると、静かな小さな入り江に出る。ここは、江の島の西側、西浦と呼ばれ、富士山もよく見える。訪れる人はまだまだ少ない穴場のスポットだ。



こんなポスト見たことある? 黒いポストがある郵便局

郵便ポストの色は赤だけではない! 江の島弁財天仲見世通りの中ほどにある島内唯一の郵便局、江ノ島郵便局の前には黒いポストが立っている。1887年頃のものを復元したのだとか。江ノ島郵便局では、窓口で依頼すると、郵便物の消印を江の島などが描かれた風景印にしてくれる。



誰が何のために造ったのか 珍しい猿だけの庚申塔

歴史ある石碑や道標が多い江の島。中でも御岩屋道通りにある「群猿奉賽像庚申塔」には、烏帽子をかぶってユーモラスな猿の姿が36匹刻まれている。いつ建てられたのかは不明だが、扇を持って舞う猿や綱渡りをする猿など、愛嬌たっぷりだ。藤沢市指定重要有形民俗文化財。

